

少数民族の人権問題を学ぶ

～アイヌの人々の文化を通して～ < 高等学校 >

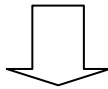
目的 北海道方面の修学旅行を契機にして、アイヌの人々の暮らしと文化について学び、自らの暮らしと文化を比較しながら、互いに尊重し、共生する姿勢を培う。
アイヌの人々の人権獲得の歴史と生きざまを学ぶことを通して、少数民族の人権問題についての学びにつなげる。

< 気づく >

アイヌの人々や文化について知っている
ことを整理する

アンケートに答え、フィードバックされた実態から、国内の様々な民族（問題）について知るとともに、学習の必要性に気づく。

アンケート作成・実施・集計
集約結果報告
SHRの時間を活用



< 広げる深める 1 >

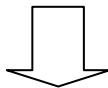
アイヌの人々のくらしや文化について自分の
課題を見つける

現在のアイヌのおかれている状況について学び、疑問や問題点を整理する。

ビデオ
「共生への道
日本の先住
民族 アイヌ」
(社団法人北海道ウタリ協会)

LHRの1時間
を活用
(クラス単位)

資料配布・説明



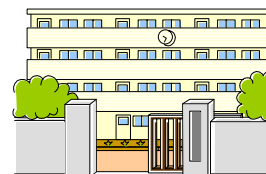
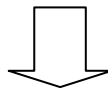
< 広げる深める 2 >

アイヌの人や文化について認識を深める

- ・アイヌの人から話を聞く
- ・アイヌ民族の文化(言葉・音楽・衣服)を体験する

実体験により、アイヌの人や文化についての認識を深める。
全員が体験できる活動を行ったり、興味関心をもつ生徒のために、アイヌの人を講師に招き、交流会をもつ。

アイヌ人講師
(アイヌ文化活動アドバイザー)
アイヌ文化振興・研究推進機構等へ派遣依頼
ムックリ演奏
トンコリ演奏
歌唱指導
民族衣装



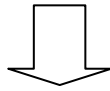
< 計画し、実践する >

自分のテーマを追究する

- ・ 修学旅行での現地訪問を実施する
(資料館・講演・民族舞踊体験等)
- ・ 研究成果の発表

修学旅行での現地訪問の計画をたて、自分のテーマを追究する。
各自の研究テーマにもとづいて追究した結果を、文化祭や特設発表会などで発表する。(班別、課題別など、発表の仕方を工夫する)

現地での自然、暮らしに触れるアイヌの人々との交流発表(コンテスト形式等)の工夫



< 振り返る >

他の少数民族について学ぶ

他の少数民族にかかわる歴史を学ぶとともに、異文化の理解と共に生きる社会のあり方について考える。
在日韓国・朝鮮人、南米等の外国人などの歴史的背景や文化などを知り、異文化の受容と共に生きることをめざす。

「講演」「映画」「資料」等を用いながら発展的な学習を展開する。

【ムックリ】

アイヌの口琴(こうきん)。竹を薄く削り、中を細く舌状に切り込んで振動弁を作る。その付け根に穴をあけて、短い棒をつけて紐を結んだもの。

【トンコリ】

アイヌの撥弦楽器。木をくりぬき、響板を張りつけて胴をつくり、五弦を張ったもの。肩にかけるか、抱きかかえるようにして両手の指ではじく。



【学習を進めるにあたって】

- ・ 在日韓国・朝鮮人、南米等の外国人などの人権に関する問題について、個々の課題に焦点づけて学習をすすめていくことも必要である。
- ・ 「アイヌ文化振興・研究推進機構」などの関係機関から、講師派遣や教材等の支援を得ることができる。